

フェンダーアンプの設計ポリシー
フェンダー真空管アンプの基本的な回路設計は、ほとんど変更されていません。が、過去35年間には、細かい点でオリジナルアンプに各種の機能が加わりました。ギター演奏スタイルの変化に伴い出力を増強する必要がありました。又、音質の多様性が必要となり、より高度なトーンコントロール、並びにイコライジング回路が付け加えられました。あらゆるボリュームレベルで真空管デストーションが得られるフェンダー独

自のマスターボリューム回路が開発され、更に録音技術の進歩に対応するため、レコーディング・アウトプット端子も増設されました。このように発展段階を経ているにもかかわらず、フェンダーアンプの基本的性格は、変わっていません。今でも妥協なしの音質、信頼性をモットーに生産されています。かつてのフェンダーアンプが今日においても傑作であるように、今日のフェンダーアンプも明日の名作なのです。

信頼の歴史ある回路設計

今でも丁寧に一つ一つ手作りされるフェンダーアンプの一目シンプルなシャーシの下には、何世代ものアンプに関する知識が結集されています。大きいものから小さいものまで、数多くのバリエーションは、それぞれの特徴をそなえ、その一台一台が信頼にお答えします。

高品質と耐久性のあるパーツ機能

多くのアンプメーカーは高い品質のパーツを使用していることを強調しますが、フェンダーは、品質が良いだけでは、不足なことを知っています。フェンダーのコンピューター用部品並のフィルターコンデンサーから大型トランス、がっしりしたノイ

ズレスボリュームスイッチにいたるまで、フェンダーアンプのどの部品も何年でも、機能が低下することなく作動しなければ意味がないのです。パーツの品質と同様に、耐久性を重要と考えるフェンダーアンプのとり替える必要のある部品は、真空管だけという理由はここにあるのです。

バランスのとれた専用真空管

長年にわたり、フェンダーは、オーディオ用真空管の世界最大の買手です。それだけに真空管メーカーとの技術提携は深く、互いに協力し、より品質の高い、そして性能の一定した真空管の製作を行っています。仮に、出力管をすべて交換できない場合でも、フェンダーアンプには、真空管のバランスを調整するチュー

ブマッチングアジャスターが付いています。

独特のトーンコントロール

どのメーカーも今では、楽器用アンプにベースミドル・トレブルそしてブライツスイッチをつけるようになり、これらのトーンコントロールの回路はほとんどと言っていいほどフェンダーのアイデアです。

初期のハイファイアンプのトーンコントロールのように、音を全域にわたり少しずつ調整するものをそのまま採用するのではなく、フェンダーでは楽器とアンプのコンビネーションサウンドをすばやく変化させるトーンコントロールを開発し、ミュージシャンの可能性をさらに伸ばしました。フェンダーアンプには“フラッ

